

特別展「ポンペイ」を見に行こう 開催



↑
ポンペイの様子が見られます

←
炭化したパン



↑ うつ伏せで亡くなった遺体の石膏像



図書館主催の“特別展「ポンペイ」を見に行こう”を7月24日（日）に行い、26名で仙台市の宮城県美術館へ行ってきました。

雨続きの天候のなか、幸いこの日は晴天でした。水沢駅6時15分発の普通列車に乗り、8時35分に仙台駅に着き、2キロほど歩いて宮城県美術館に到着しました。

ポンペイは、南イタリアにあったローマ時代の古代都市です。人口は1万人程度であったと推測されています。西にナポリ湾を望むこの街は、風光明媚で大地は肥沃、交通の要衝でもあり、紀元前2世紀ごろから大きく栄えていました。紀元79年に街の北西にあるヴェスヴィオ山の噴火による火砕流で、すべてが埋没してしまいました。ポンペイの家々や神殿、美術品、家財道具は短時間で噴火堆積物の下に閉じ込められ、18世紀に発掘され始めるまで、誰にも手をつけられることなく眠り続けてきました。発掘された遺跡からは、当時の人の住居や生活の調度品、遺体の痕跡までそのまま出土しています。展覧会では、ナポリ国立考古学博物館のもと、日本初公開を含む約130点を展示、ポンペイの豊かな暮らしを、発掘の成果をもとに紹介しているものです。

到着後、チケットを購入し、2時間後に集合として館内自由観覧しました。

会場に入るやいなや展示されていたのが、女性犠牲者の石膏像でした。人間が噴火の堆積物に埋もれ、その後それが朽ちて、そこに遺体の形で空洞ができました。そこに石膏を流し込み、固まってから掘り出したものがこれです。亡くなった瞬間の

住民の姿がわかる石膏像です。テレビ番組等で見られ、有名なものですが、実物を生で見ると、それが石膏像でありながらも、亡くなった瞬間の形であるため、身の毛もよだつような感動がありました。

また、金で作られたアクセサリ、ガラス食器、住居の壁に飾られたフレスコ画…次々に展示が続きました。熱風で炭化したパンはそのままの形で黒焦げになっていました。ブロンズで作られた水道管は街中に張り巡らされていたようで、この時代の日本が弥生時代晩期であったことを思うと、その技術の高さを実感させられます。これを見て会話している生徒の様子にも、その感動があらわれていました。

展示品の写真撮影も自由にできたので、生徒は大いに楽しめたようでした。

展示室を出たところには、展覧会関連の特設ショップがありました。展示品をモチーフにした文具、小物、アクセサリ、ぬいぐるみ、レプリカ…が販売されており、生徒はこれにも興味津々で、たくさんの買い物をしたようです。

館内見学2時間は長すぎるかと思いましたが、ちょうどよい時間でした。

今回の企画の目的は、「ポンペイ展」とともに、生徒諸君が見たことない、行ったこ

とがない大型書店に行き、本の豊富さに触れさせることでした。

お昼過ぎ、仙台駅前「AER」という商業施設の1階にある大型書店「丸善」でいったん解散しました。この4階にはこれも大型の文房具店があり、生徒は有意義に時間を過ごせたようです。

ちなみに「丸善」は東京日本橋に本店がある明治2年創業の老舗書店です。文明開化とともに洋書の輸入販売の草分けでもあります。余談ですが、「ハヤシライス」は創業者の早矢仕有的（はやしゆうてき）が考案したものとされ、本店ははじめ、各支店に併設されているカフェには、このハヤシライスがあります。

16時20分に仙台駅に集合し列車に乗りましたが、帰路の荷物は、ポンペイのお土産と購入した本で重そうでした（本は特に重くなる。これを予想してキャリーバッグを持参した人もいて、これは流石！）。

19時に水沢駅に到着、解散という一日でした。

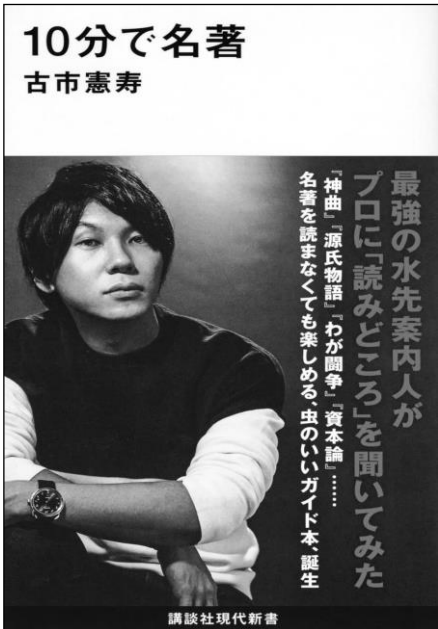
今回、COVID-19感染拡大の時期にあたり、参加申し込みをしながら参加を取りやめた生徒もいて、気の毒でした。

好評でしたので、また企画をします。楽しみにしてください。



・ 2084年のSF
【編】日本SF作家クラブ

2084年の世界を舞台にしたSFが23篇。
第二次大戦後の1984年、ジョージ・オーウェルは1984年を舞台にしたディストピア小説を発表した。それから100年後の2084年を舞台に、現代のSF作家たちはどんな世界を描くのか？



・ 10分で名著
【著】古市憲寿

12の名著を、訳者などその道のスペシャリストの話を交えながら紐解いていく。

- 『神曲』 『源氏物語』
- 『失われた時を求めて』 『相対性理論』
- 『社会契約論』 『ツァラトゥストラ』
- 『わが闘争』 『ペスト』 『古事記』
- 『風と共に去りぬ』 『国富論』 『資本論』

・ ふたりのママから、きみたちへ
【著】東小雪/増原裕子

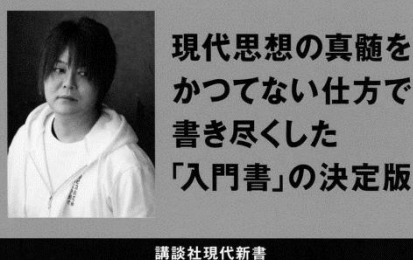
東京ディズニーリゾートで同性結婚式を行ったふたりが、子どもを迎える準備をはじめた…。新しい時代の“家族のかたち”を模索する、静かな問題作！



・ 現代思想入門
【著】千葉雅也

現代思想とはフランスの現代思想のこと。この本では、20世紀後半に活躍した3人の哲学者を取り上げている。人々が、1つの価値を信じて目指すというのではなく、20世紀後半に世の中の多様化が進んでいく過程で、世界をどう捉え直すか、世界と人間のあり方を考え直そうとした哲学です。それを21世紀の世界の中で、もう1度読み直す必要があると著者はいいます。

現代思想入門
千葉雅也



・ 13歳からのアート思考
【著】末永幸歩

「アート思考の『アート』は表現技法ではなく、自身の視点でものごとをとらえ、解釈し、表現することです。美術の本来の目的は、常識的なものの見方から離れ、自分なりの答えをつくる力を育むことです」と著者の末永さんは話します。



・ あなたのセックスが楽しくないのは 資本主義のせいかもしれない
【著】クリステン・R・ゴドシー

ピンクの装丁と尖った書名にドキリ！読んでみた生徒の評価は、「面白かった」「読んでよかった」と、とても好評でした。さて、さて、その内容は…？